

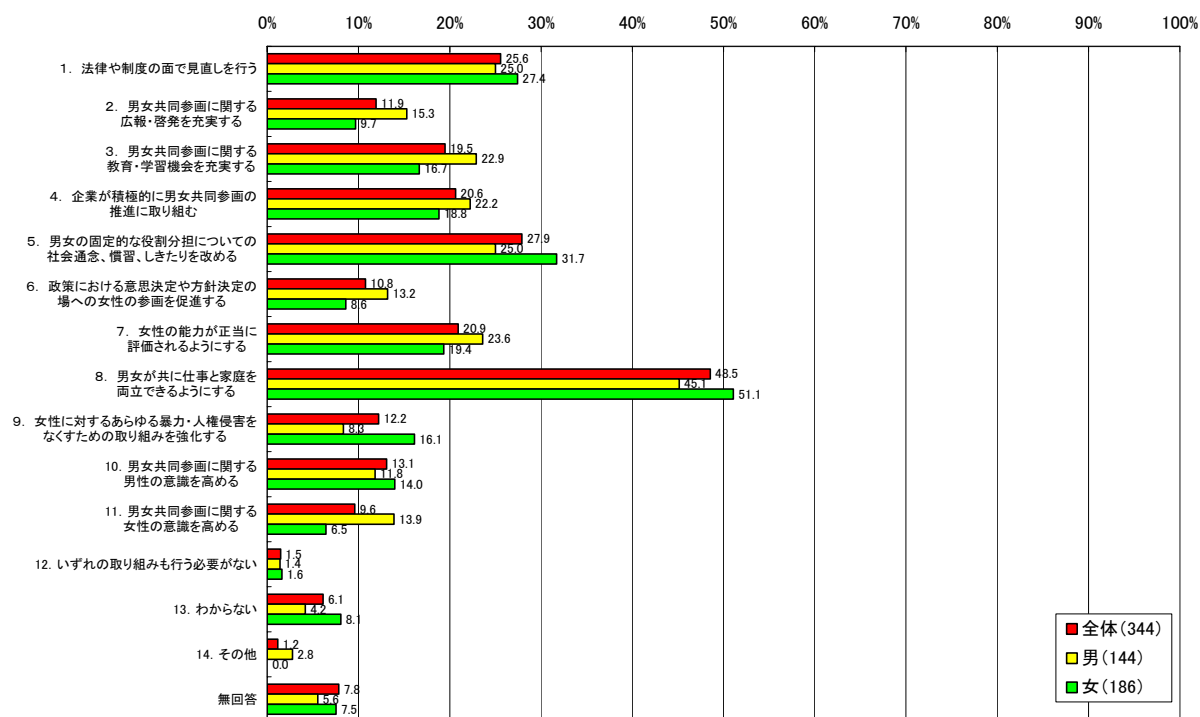
7 男女共同参画の推進について

7-1 男女共同参画社会の実現に向けた必要な取り組み

問 16. 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

【全体】

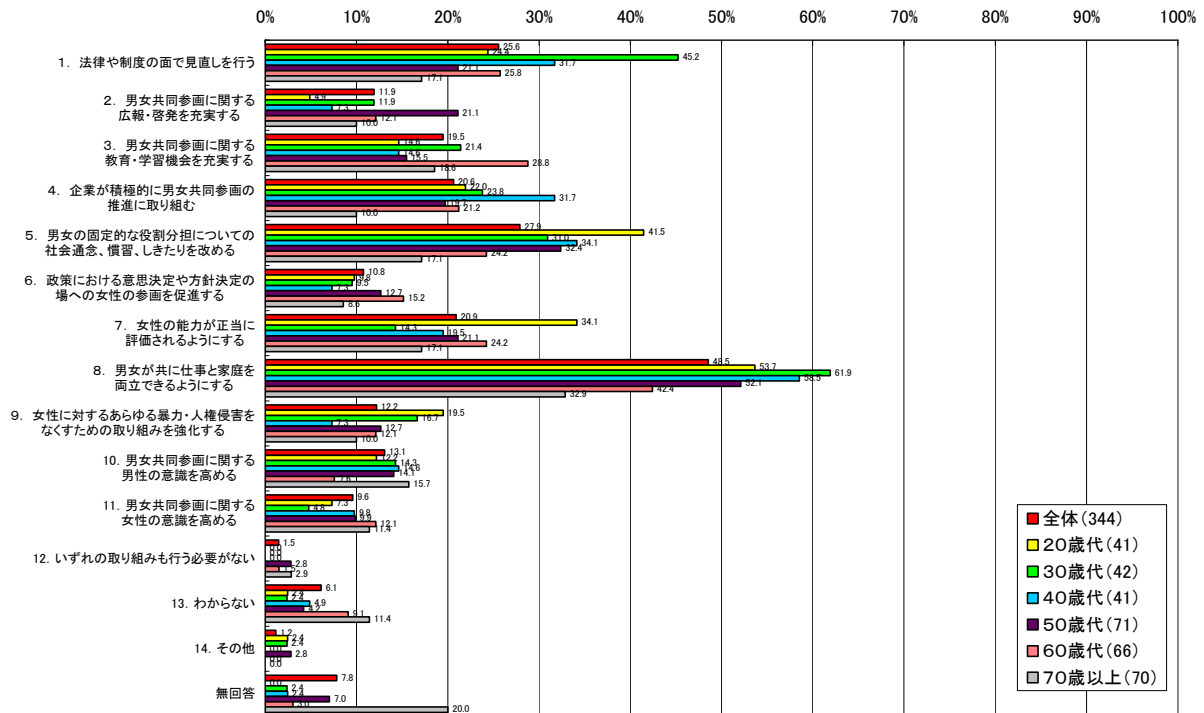
「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」と回答した方が48.5%と5割弱を占め最も多く、次いで「男女の固定的な役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」と回答した方が27.9%と多くなっています。



【性別】

男女とも、「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」と回答した方（男性45.1%、女性51.1%）が最も多くなっています。

なお、「女性に対するあらゆる暴力・人権侵害をなくすための取り組みを強化する」という項目については、女性が16.1%に対し、男性は8.3%と、女性の半数程度で、他の項目に比べ男女におけるポイント差がやや大きくなっています。



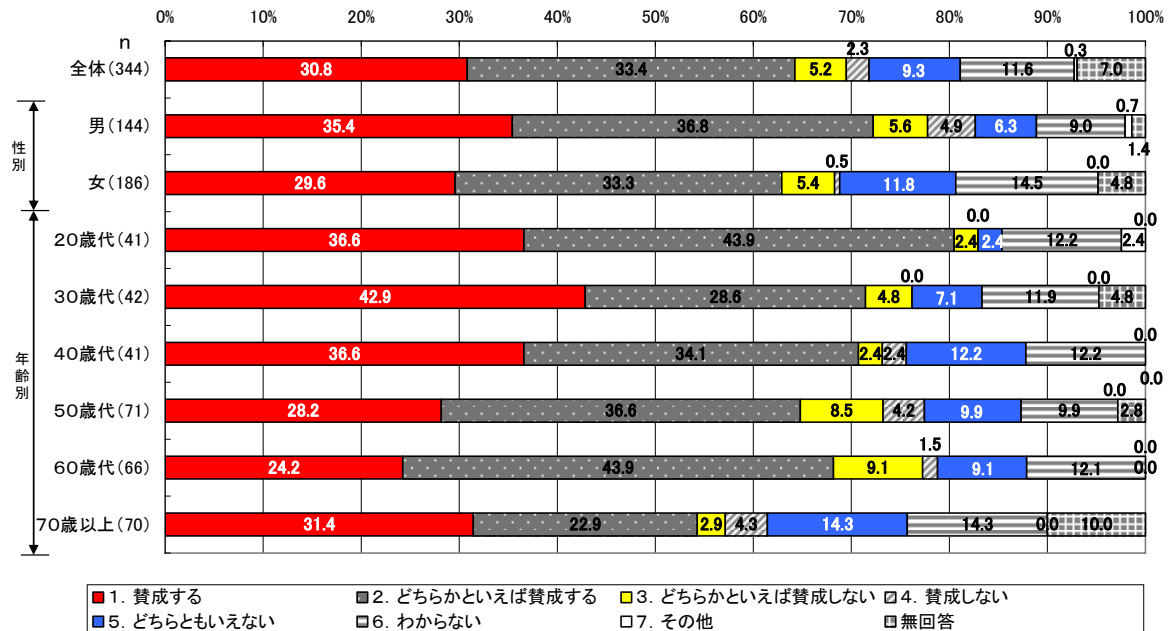
【年齢別】

すべての年齢層において「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」と回答した方が最も多くなっています。なお、この割合については、30歳代が61.9%と最も高く、次いで40歳代が58.5%となっており、70歳代が32.9%と最も低くなっています。

したがって、成長期の子どもがいる年齢層において、「男女が共に仕事と家庭を両立できるようにする」取り組みが必要であると思う方が多くなっていることがうかがえます。

7-2 男女共同参画社会の形成への賛否

問 17. あなたは男女共同参画社会の形成という考え方に賛成しますか。(〇は1つ)



【全体】

「どちらかといえば賛成する」が33.4%と約3分の1を占め最も多く、次いで「賛成する」(30.8%)が多くなっており、男女共同参画社会の形成という考え方には約3分の2の方が賛成しているという結果になっています。なお、「賛成しない」「どちらかといえば賛成しない」を合わせると7.5%の方が賛成していないという結果になっています。

【性別】

「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を見ると、男性が35.4%と36.8%、女性が29.6%と33.3%で、男性のほうが賛成すると回答した方が多くなっています。

なお、「賛成しない」と「どちらかといえば賛成しない」を見ると、男性が4.9%と5.6%、女性が0.5%と5.4%で、男性のほうが賛成しないと回答した方が多くなっています。

【年齢別】

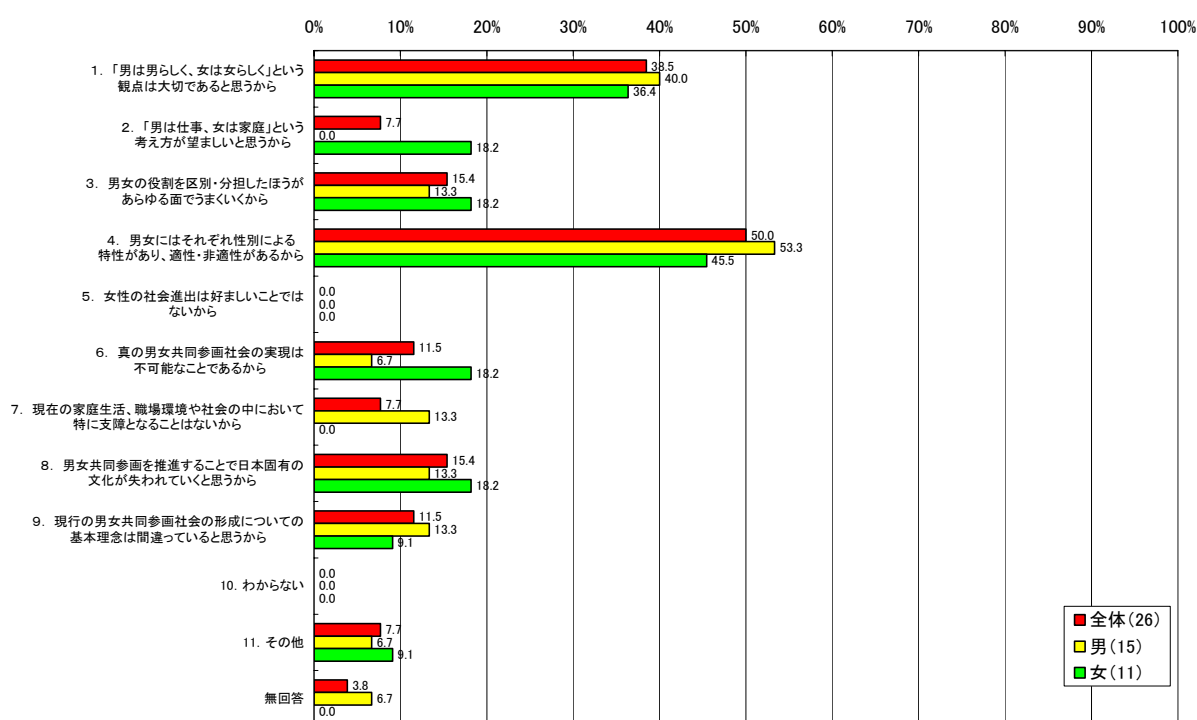
「賛成する」「どちらかといえば賛成する」を合わせると、20歳代が80.5%と8割を占め最も多く、次いで30歳代が71.5%と多くなっており、70歳以上が54.3%と最も少なくなっています。したがって、若い年齢層のほうが男女共同参画社会の形成という考え方に賛成する方が多くなっています。

7-3 男女共同参画社会の形成に賛成しない理由

問17-1. 問17で「3」または「4」に○をご記入した方のみお答えください。賛成しない理由は何ですか。(○は2つまで)

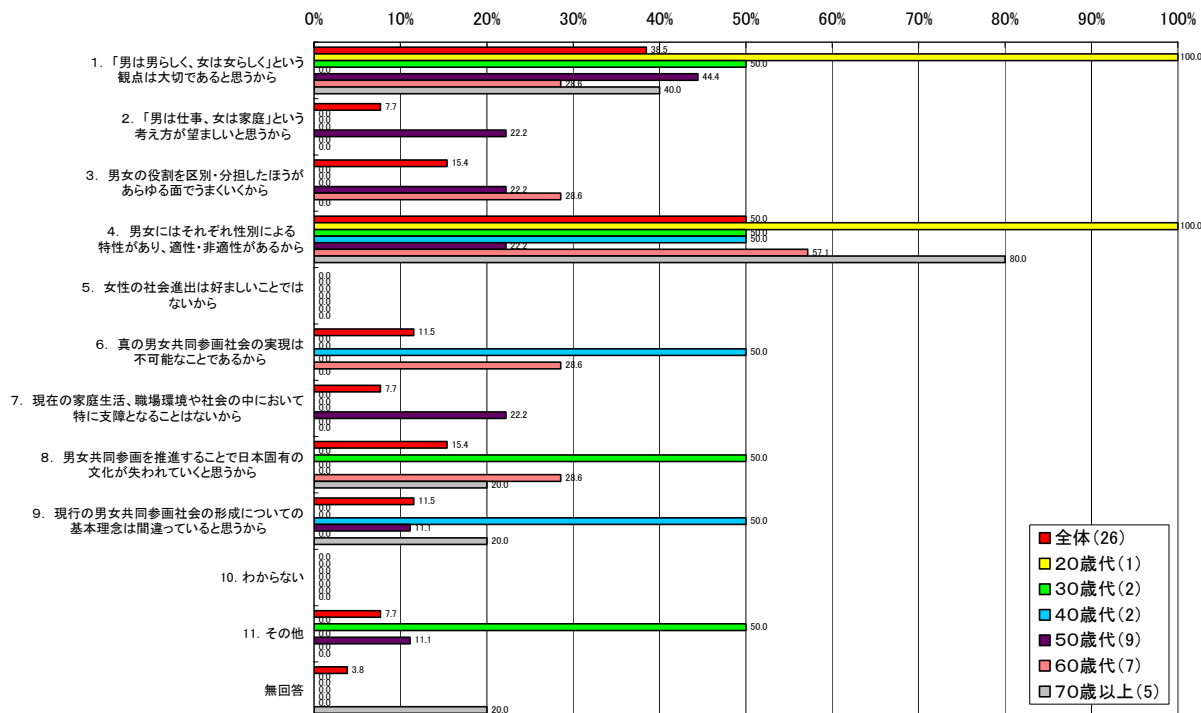
【全体】

「男女にはそれぞれ性別による特性があり、適性・非適性があるから」が50.0%と5割を占め最も多く、次いで「男は男らしく、女は女らしく」という観点は大切であると思うから」が38.5%と多くなっています。



【性別】

男女とも、「男女にはそれぞれ性別による特性があり、適性・非適性があるから」と回答した方（男性53.3%、女性45.5%）が最も多く、次いで「男は男らしく、女は女らしく」という観点は大切であると思うから」（男性40.0%、女性36.4%）と回答した方が多くなっています。なお、「男は仕事、女は家庭」という考え方が望ましいと思うから」と回答した方は、男性が0.0%に対し、女性は18.2%、また、「真の男女共同参画社会の実現は不可能なことであるから」と回答した方は、男性が6.7%に対し、女性は18.2%と、女性回答者の割合のほうが高く、他の理由に比べそのポイント差が顕著になっています。



【年齢別】

ほとんどの年齢層において、「男女にはそれぞれ性別による特性があり、適性・非適性があるから」という理由と、「男は男らしく、女は女らしく」という観点は大切であると思うから」という理由を選択した方の割合が高くなっています。